

鳴る音のオノマトペ化を行います。また、駅員のマイクから取得した駅アナウンスをリアルタイムに文字に変換するほか、文章の意味に合わせてフォントを自動的に変化させます。」と書かれています。このように、音が可視化されると、聞こえにくい人だけでなく、聞こえる人にとっても便利なことが多いように思われます。聞き漏らしたアナウンスを、文字で確認できたら、とても便利ですよね。また、音をオノマトペに変えて、文字のフォントも変えて表示してくれるので、どんな大きさの音なのか、どんな感じの音なのかも、目で見て分かりやすいですね。この実証実験は12月半ばまで行っているそうです。夏休みなど、時間が作れるときに、ぜひお子さんと見に行ってみてはいかがでしょうか。現在、平日の 10:00~17:00 のみ稼動しています。

<https://ekimatopeia.jp>

「あいうえお」は日本語のお母さんです。

では、日本語のお父さんはいるの？

あいうえお
おなかに手をあて
「あいうえお」
むねに手をあて
「あいうえお」
ほほに手をあて
「あいうえお」
みじかくきつて
「あ、い、う、え、お」
すくすくはいて
「あー、いー、うー、えー、おー」
ではもういちど
おなかに手をあて
「あいうえお」
「あいうえお」は母音について
日本のことばのお母さんです

低学年の発音の授業で、上記の詩を学習しました。音読の練習を重ねた後に、50音表を掲示して、子どもたちに「か」を少し長く伸ばすと、何て聞こえるか尋ねました。子どもたちは『『あ』って聞こえる』と少しずつ気づき始めていきます。「じゃあ、『さ』を少し伸ばすと・・・、『た』はどうか？』というように、あ段の音を少し長く伸ばすと、すべて「あ」と聞こえることを確認しました。そこで、「だから、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ」のお母さんは『あ』なんだよと教えました。その後、同じように「き、し、ち、に・・・のお母さんは『い』」「く、す、つ、ぬ・・・のお母さんは『う』」「け、せ、て、ね・・・のお母さんは『え』」「こ、そ、と、の・・・のお母さんは『お』」であることを確認しました。すると、ある子どもが、「日本語のお父さんっているのかな？」とつぶやきました。それに対して「お父さんは、いないんじゃないの？」とつぶやく子どももいました。子どもたちから自然に出てくるちょっとした疑問に、ハッとさせられたり、微笑ましく思ったりしながら、楽しく授業をしています。発音の授業を通して「日本語の面白さ・楽しさ・不思議さ」を感じる場面を、子どもたちとたくさん作っていきたいです。